

検討会等名称	第4回福祉を科学する検討会
開催日時	令和7年2月3日（月）14時30分～16時30分
開催場所	東庁舎42会議室
出席者	大川委員、高原委員、中西委員、羽生委員
問合せ先	障害サービス課独立行政法人化グループ
会議概要	以下のとおり

【法人研修について】

- 利用者が安心して生活していくために、最初に職員が施設に入るに当たって救急救命の研修を入れる必要がある。
- 当事者体験をしていくことが大切である。職員が利用者になりきって1週間施設に泊まり込む研修を実施している法人もある。
- 時間が来たら終わりではなく、利用者の生活はずっと続いているということを体験したり、同じ食事、同じトイレ、同じ風呂を使うといった生活を体験してもらうことを大事にしている。
- 共感力で大切なのは、目隠しして1日支援をしてもらうなど、当事者、支援される側になってみるということである。当事者目線の支援を謳っているのであれば、当事者目線に特化した研修を入れていかなければいけない。
- 園の中で好事例をしっかりと発表し合うような機会が職員に対しても必要である。他の職員の事例から学ぶということを定期的に行った方がよいのではないか。
- 施設職員に一番必要なことは、利用者の「普段との違い」に気づくこと。いくらスキルがあっても、利用者を心配することができないと、必要としている支援ができない。現状では、よく気がつく職員が気づいて声を上げることで現場が成り立っていることが多い。それをどのように研修として成り立たせていくかを考えていかななくてはならない。
- 医療の場合は、ヒヤリハットや事故報告による評価があるが、福祉の現場では、何も心配せずに機械的・義務的に仕事をしていることもヒヤリハットに入ってくると思う。そういう評価軸が研修に入っていないと、研修で受けた内容を「なぞればよい」となってしまう。